

弟子の掟⑪

2011/9/18

シリーズ～弟子道～

前回の掟

■ 思い悩むな

- －なぜなら：天の父が養って下さるから
- －天の父はあなたの必要をご存じだから

■ 神の国とその義をまず求めなさい

- －「自分の国」を実現させようとしな

■ 明日のことを思い悩むな

- －明日があるかさえ分からないのだから
- －明日は、明日が思い悩むのだから

マタイ福音書7章1～6節

1「人を裁くな。あなたがたも裁かれないようにするためである。2 あなたがたは、自分の裁く裁きで裁かれ、自分の量る秤で量り与えられる。

3 あなたは、兄弟の目にあるおが屑は見えるのに、なぜ自分の目の中の丸太に気づかないのか。

4 兄弟に向かって、『あなたの目からおが屑を取らせてください』と、どうして言えようか。自分の目に丸太があるではないか。5 偽善者よ、まず自分の目から丸太を取り除け。そうすれば、はっきり見えるようになって、兄弟の目からおが屑を取り除くことができる。

6 神聖なものを犬に与えてはならず、また、真珠を豚に投げてはならない。それを足で踏みにじり、向き直ってあなたがたにかみついてくるだろう。」

裁き好きなファリサイ派

■「裁く」とは

- 狭義：ファリサイ派の得意技？律法に照らして人を罪人呼ばわりすること
- 広義：人の欠点や間違いを非難すること

■ファリサイ派はイエス様をも裁いていた

- 「ファリサイ派の人々はこれを見て、弟子たちに、『なぜ、あなたたちの先生は徴税人や罪人と一緒に食事をするのか』と言った。」＜9:11＞
- 自分たちは正しい、と自負していた

人を裁くな

- 人を裁く人は自分も裁かれる
 - 「あなたがたも裁かれないようにするためである」
 - 裁かない人は裁かれない
 - 裁いた相手から裁かれるだけでなく、天の父があなたを裁く
- 人に向けた物差し・秤で自分も量られる
 - 「自分の裁く裁きで裁かれ、自分の量る秤で量り与えられる」

裁判をしてはいけないのか？

- もちろん法律に基づいて裁くことを禁じているのではない
 - － 所属する地域における法律は、互いが安心して生きていくためのルールである
 - － 皆が同じルールのもとに裁かなければならない
- 自分の尺度で人を裁くな、という意味
 - － 私たちは、自分の尺度・価値観・善悪観などで人を裁いてしまう
 - － 一方で自分を正当化している

人を裁くな

- 人の欠点はよく見えるが、自分の欠点にはきづいていない
 - 「あなたは、兄弟の目にあるおが屑は見えるのに、なぜ自分の目の中の丸太に気づかないのか」
- なぜ自分の欠点(丸太)に気づかないのか
 - わざと見ないようにしている・認めるのが恐ろしい・言い訳して正当化している
- 人を裁くまえに、自分を裁きなさい
 - 「偽善者よ、まず自分の目から丸太を取り除け」

自分の目から丸太を除くには

- あなたを批判してくれる人と一緒にいる
 - － あなたを批判してくれる人は貴重な人
- 人に向ける批判を自分に向けてみる
 - － 意外に自分も同じ欠点を持っている
- 聖書の言葉から学ぶ
 - － 聖書の教えを自分のこととして受け取る

豚にならないために

- 「神聖なものを犬に与えてはならず、また、真珠を豚に投げてはならない。それを足で踏みにじり、向き直ってあなたがたにかみついてくるだろう。」
- せっかくの真理も価値が分からなければ何の意味もない
 - －この教えを自分のこととして理解しなければ、あなたは犬や豚に等しいということ
- 弟子の掟は、自分に対する掟として受け止めなければならない